

2025 年 10 月 19 日（聖霊降臨後第 19 主日・特定 24、C 年）

メッセージ

「しつこく祈り続ける」

（ルカによる福音書18:1-8）

司祭ヨセフ太田信三

先週の福音では、信仰とは物事の先に働かれる神を見る目であることが示されました。その目をもって世界を見る信仰者は、この世界に実際に働かれている神を見、神と共に生きることになります。その目で世界を見るなら、たとえばそれまで単なる「偶然」としてきたものが、意味あるものへと変えられることがあります。そして、この世界に神の存在を確かに見つめ、神との交わりに生きるなら、そこにおられる神との会話である「祈り」が生まれます。なぜなら、神と同じ世界に生きるなら、神とのコミュニケーションである祈りが必然的になされるからです。それゆえ、信仰者の特徴とは「祈り」なのです。

しかし、祈り続けることは難しいとつくづく感じます。日々の煩わしさのなかで、神を見失ってしまうことや、自分の祈りが聴かれていないのではないかと疑い、祈ることをやめ、神との交わりから離れてしまう。これが私たちの現実ではないでしょうか。しかし、そういう人間のことをイエスはよくご存知だからこそ、「気を落とさずに絶えず祈らなければならない」ことを教えてくださいました。

やもめは、自分を守るもの、保護してくれるものが何もない、極めて弱い立場を象徴する存在です。そんな彼女の唯一の武器は、「しつこさ」でした。彼女は「神を畏れず、人を人とも思わない裁判官」のところに通い続け、訴え続けます。結果、そんな裁判官でさえ、彼女のしつこさに押され、目を向けざるを得ないところまで追い込まれます。まして神は、しつこく祈る者から目を背けるはずがない。神は必ず祈りを聞き届けてくださるのだから、落胆せず祈り続けなさいと、イエスは励ましたのです。

今日の旧約聖書が強調することも「しつこさ」です。食い下がるヤコブを主は祝福し、イスラエルという新しい名、新たな命を与えました。もちろん信仰も、希望も、すべて私たちの行いによって獲得されるものではありません。私たちの目が開かれるのは、神が私たちと常に共におられるからこそです。神がいつも一緒にいてくださるからこそ、私たちの信仰の目が開かれるなら、いつでも神を見出し、祈ることができるのです。

いつも私たちと共におられる神は、必ず私たちの祈りを聴いてくださいます。神がその祈りにどのように応えてくださるかは分かりません。しつこさだけが武器であったやもめのように、祈り続け、神との交わりに身を置き続けることでしか、それは分からないのです。しかし神は必ず、私たちの想像を遥かに超えて応えてくださいます。気を落とさず、しつこく祈り続けられますように。そして、神と共に生き続けることができますように。